

● 2015年（平成27年）10～12月

1 社会・治安情勢

(1) シリアからヨルダン国内への砲弾

10月6日、ヨルダン当局の関係者は「シリア側の不安定な治安情勢の結果として、2発の迫撃砲がラムサに着弾した」と述べた。着弾した2発の迫撃砲のうち、1発は砂漠地帯に着弾し被害はなく、残りの1発は民家に着弾し、負傷者等はなく民家に軽度の損壊を与えた。

アンマンから北方約90キロに所在する国境の都市ラムサは、8月にも迫撃砲が着弾し負傷者がでているほか、7月には民家に着弾した迫撃砲により23歳の男性が死亡し、4人の負傷者が出ている（10月7日付ヨルダン・タイムズ紙）。

(2) 国境における不法入国

ア 10月11日、ヨルダン国境警備隊は外国籍の男性による陸上国境を通じた密入国を阻止した（10月14日付ヨルダン・タイムズ紙）。

イ 10月26日、ヨルダン国境警備隊は悪天候に乗じてヨルダン国境からシリアへの不法侵入を図った1台の車両を破壊した（10月27日付ヨルダン・タイムズ紙）。

ウ 11月2日、ヨルダン国境警備隊は、ヨルダンから隣国へ不法に越境しようとした2人組（内1名は外国国籍者）を逮捕した（4日付ラーイ紙）。

エ 11月8日、ヨルダン軍は、過去72時間以内にヨルダンから隣国へ不法に越境しようとした2人の身柄を拘束し、外国人3名が隣国からヨルダンへ不法に入国しようとしたのを阻止した（9日付ヨルダン・タイムズ紙）。

オ 11月9日、ヨルダン軍は、5人がシリアからヨルダンへ不法に越境しようとしていたのを阻止した。5名（うち1名は負傷）はシリア領内へ引き返した（10日付ヨルダン・タイムズ紙他）。

カ 11月24日、国境警備隊は、シリアからヨルダンへの不法入国を企図した男性1名を逮捕した。

キ 12月3日、国境警備隊は、ヨルダン周辺国から陸路で当国への密入国を企図した外国人2名を逮捕した。同警備隊は、過去1週間に密入国者1名を殺害し、1名を負傷させた。また、過去1ヶ月で同国境警備隊が殺害若しくは負傷させた密入国企図者は、ほとんどが麻薬組織の関係者であった。

ク 12月12日、国境警備隊は、男性2名のシリアからヨルダンへの不法入国を阻止した。1名は殺害され、1名は怪我を負った（12月13日付ヨルダン・タイムズ紙）

### (3) ワディ・ラム近郊における騒擾事案の発生

ア 10月16日及び17日、ワディ・ラム近郊にあるアッラシッディーヤ (AR RASHDIYYA) で騒擾が発生し、デザート・ハイウェイ (15号線) が一時的に封鎖された。今回の騒擾により男性1名が死亡し、警察は14名を検挙した。警察関係者によると、本事案は、16日の夜、警察が追跡中の容疑者を射殺したところ、射殺された容疑者の親族がデザート・ハイウェイを封鎖して治安機関に対する抗議活動を行い、騒擾に発展したものの。

イ 警察関係者は、「夜間におけるデザート・ハイウェイの通過は可能な限り控えるとともに、アカバ近郊については死海道路 (65号線) など別の道路を利用することをお勧めする。」としている (10月20日付ヨルダン・タイムズ紙)。

### (4) アンマンのマルカ地区における騒擾事案

ア 10月23日夜、アンマンの北東部に位置しているマルカ地区で若者集団による騒擾行為が発生し、多くの負傷者が発生した。

イ 火器を含む武器を所持した集団が約3時間にわたり、車両の放火、商業施設のガラス等の破壊及び公的建物・一般住宅の破壊行為に及んだところ、口論となった住民らと銃撃戦になり、双方に多くの負傷者が発生した。

ウ また同集団はタイヤを燃やして道路を封鎖し投石行為に及んだため、憲兵隊が催涙弾を使用して介入し、騒擾関与者の身柄を拘束した。

エ 22日夜に同地区で発生した若者集団間での乱闘により、17歳の青年がナイフによる太腿の負傷により死亡したことが発端と見られている (10月24日付ガド紙)。

### (5) シリアからヨルダン国内への流れ弾

11月20日、シリアからの流れ弾がヨルダン国境付近のラムサに着弾し、空き家の天井を損壊したが負傷者は発生しなかった。最近の同種の事案の発生については過去4年間に比べると頻度が下がっており、前回の着弾は2ヶ月前であった (11月22日付ヨルダン・タイムズ紙)。

### (6) イルビッドにおける警察官射殺事件

ア 11月30日、警察官2名がイルビッドにおいてパトカーで巡回中、何者かに銃撃され死亡する事件が発生した。警察官1名は銃撃により負傷し、運転していたパトカーはコントロールを失い壁に激突した。両名は病院に搬送されたが、病院で死亡が確認された。

イ 後日、ヨルダン警察庁は、事件に関与した疑いのある被疑者3名を検挙し

たと発表した。10月上旬、警察がサマ村北部にある共同墓地を損壊した疑いで被疑者数名を検挙した際、1名の被疑者を銃撃戦で殺害していた。今回の警察官射殺事件を計画した3名の内1名は、同銃撃戦の末に殺害された被疑者の兄弟であり、他の2名は同兄弟の友人と従兄弟であった（12月2日付ヨルダン・タイムズ紙他）。

#### （7）カラクにおける騒擾事案

ア 12月4日、カラクのジャディーデにおいて口論を起因とする殺人事件が発生した。被疑者は自動小銃とライフルで40歳と26歳の被害者を射殺した。5日、ヨルダン警察は、4名の被疑者を逮捕した。

イ 12月6日、ジャディーデにおいて不審者による家屋5軒の放火が発生し、また治安当局との間で銃撃戦が発生した。放火された家屋は、4日に発生した部族関係者間の射殺事件の被疑者らが所有するものであった。

#### （8）ペトラ周辺における騒擾事案

ア 12月31日、ワディー・ムーサ（ペトラ周辺）において、若者らと先日付小切手による車両売買の禁止に対する抗議運動を制止した憲兵隊との間で衝突が発生した。その後、ワディー・ムーサの広い地域において騒擾が発生し、店舗・観光バスへの放火、投石・火炎瓶の投擲、幹線道路の封鎖等が行われた。憲兵隊は催涙ガスを使用して騒擾を鎮圧し、騒擾行為に参加した若者らを逮捕した。

イ 同日夕方、邦人17名が乗車した観光バスが同地域を通行中、投石・火炎瓶の投擲を受けた。

## 2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（1）11月9日、アンマン東部の国際警察訓練センターにおいてヨルダン人警察官による銃撃事件が発生し、米国人訓練士2名、南アフリカ人訓練士1名、ヨルダン民間人2名の計5名が死亡し、米国人訓練士2名、ヨルダン人警察官3名、レバノン人中尉1名の計6名が負傷した（11月10日付当地各紙）。

#### （2）2015年の治安当局による犯罪検挙数等

ア 被逮捕者数 66,971名

イ 違法武器の押収数 822丁（拳銃, ライフル銃, 自動小銃）

ウ 盗難車両の押収台数 486台

エ 犯罪捜査局が取り扱った殺人件数 126件（12月30日付ガト紙）

## 3 テロ・爆弾事件発生状況

なし。

4 誘拐・脅迫事件発生情報

なし。

5 日本企業の安全に関わる諸問題

なし。

(了)